

2023年度（令和5年度）事業報告

障害者支援施設 久保更生園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- | | |
|------------|-----|
| ① 生活介護事業 | 60名 |
| ② 施設入所支援事業 | 60名 |
| ③ 短期入所事業 | 2名 |

(2) 県市町村等からの委託、補助事業等

- | | |
|----------------|----|
| ① 日中一時支援事業 | 2名 |
| ② 由布市緊急時入所支援事業 | |

(3) 地域における公益的な取組

- | | |
|-----------|--|
| ① 子ども工作教室 | |
|-----------|--|

(4) 運営方針

令和5年度は、重度化・高齢化が進むことで生じる問題等に対応していくために「全職員がチームとして結束し、利用者満足の上及び業務の効率化を図る」を事業所目標として取り組みました。職員個人のスキルアップを図るため、研修への積極的な参加や園内研修の充実、職員間の縦と横の繋がりを強化（報告・連絡・相談）できるよう環境の整備に努め、サービス提供においては、従来の集団的な行事を見直し、個別支援を重視した計画を検討する中で、一人ひとりのニーズを聞きながら意思決定支援に繋げ、利用者の満足向上に努めてきました。

園内研修については、マニュアルを作成し、職員の学びを増やすために1つの研修を2か月かけて実施するなど、次回の振り返り研修までの目標を設定し取り組み、定着出来るように改善しました。

行事についても、利用者のニーズに応え個人や数名で実施する行事を取り入れることで、利用者の方の笑顔も増え、利用者の満足度アップに繋がりました。ケアの面では、後半より不適切なケア防止に向けた取り組みを行いました。朝礼時に法人理念、虐待等に関する事項の読み合わせや呼称の統一（さん付け）、適切で丁寧な利用者への関り、虐待防止に向けた定期的な研修等実施し、職員の意識改革に取り組みました。

また、やりがいを感じられる職場づくりを念頭に置き、業務の見直しとともに業務の効率化を図るため、法人制度の周知を実施し、業務の見直しと業務フローの整備を行い働きやすい職場環境づくりに努めました。まだまだ課題は残りますが、今後も引き続き取り組んでいきたいと思っております。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	法人制度の周知や業務分担の明確化 (達成度 70%)
現状と課題	育児や介護などにより働き方は多様化している中、法人制度などの整備は進められてきたが周知ができていない現状がある。多様な働き方(短時間勤務・臨時職員など)に対して、安心して働けるよう職員の合意形成を行った上で、業務分担を明確にする必要がある。また、多様な働き方により正規職員の負担が増している。
取組の方向性	多様な働き方について、制度の周知を図るとともに、正規・臨時・パート職員の業務の明文化に取り組む。
取組の結果	働き方が多様化している中、法人より新たな資料が回覧された際は、必要に応じ周知し、回覧場所に置いている。正規・臨時・パート職員の業務分担は出来ているが、更なる取り組みが必要。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	メンター制度の有効活用 (達成度 60%)
現状と課題	メンター制度の導入にあたり、現状として制度の共有が不足している。また、メンター制度は新人職員に対しての制度であり、最近の採用の動向として、中途採用者が増えているため、中途採用者への指導・教育をするための仕組みづくりの構築が必要である。
取組の方向性	メンター制度を活用しながら、中途採用者の教育課程にも落とし込むための仕組みづくりを構築する。
取組の結果	中途採用職員に対して、毎月の面談を行う予定であったが、業務中に話し合いの時間を取る事が難しく進んでいない。また、メンターの年齢の方が若く年が離れており、指導面での課題が多い。

実施施策	組織体制の強化を図りチーム力を向上 (達成度 60%)
現状と課題	サービスの質を少しでも高めるため、職員個々のレベルアップもさることながら、チームとしての力量を高めていくことが必要である。また、臨時職員やパート職員の増加や職員の年齢層の幅が広がっている。多様な働き方を踏まえ、職場

	内の横の繋がりを大切にした組織体制の強化が必要である。
取組の方向性	研修会への参加を積極的に行いながら、チームで取り組む企画を模索し実施する。
取組の結果	チームケアについての研修参加は行えたが、今後更なる強化が必要である。決定事項の周知については、回覧 BOX や回覧用のファイルの置き場所を決めたり、職員会議のあり方を検討し周知を図るが、徹底できていない。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	職場内の関係作りの構築 (達成度 65%)
現状と課題	人材確保が困難な状況から職員が長く働き続けられる職場づくりが重要であるとともに、職場内の縦と横の関係性の強化を図り、開かれた職場環境づくりが必要である。
取組の方向性	育成面接の強化を図りつつ、個々のスキルアップに繋げ、意見を取り入れるための環境作りに取り組む。
取組の結果	職員個人の悩みや意見に対して、意見ボックスを設置したが、具体的な訴えは上がってきていない。また、キャリアパスシートを基に、育成面接を行うが、十分ではない。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ノーリフティングケアの普及及び推進 (達成度 75%)
現状と課題	利用者の重度高齢化が進む中、身体機能の低下が顕著である。大分県では利用者の安心・安全や職員の負担軽減を目的とした「ノーリフティングケアの普及及び推進」を図ることを進めている。このようなノーリフティングケアの実現には、ICT や介護ロボットの技術が不可欠であり、積極的な導入や活用を進め実践していく必要がある。
取組の方向性	ICT や介護ロボットの情報収集と学ぶ機会を通して理解を深め、利用者の安心・安全や職員の負担軽減を図る。
取組の結果	移動式ロボットを検討したが、建物の構造上困難であり、取り入れることが出来ていない。ノーリフティングケアについては、パンフレット等で情報収集は行っている。また、利用者の身体の機能維持のためにランニングマシンやフットマッサージャーを導入、日中活動に取り入れ定期的に使用しており、利用者からも好評である。

実施施策	効率的かつ効果的な業務改善（達成度 90%）
現状と課題	日々の記録や利用者の私物購入などで課題があり、効率的かつ効果的な業務を進めていく必要がある。また、職員が主体的に行動し、業務改善を図っていくことが重要である。
取組の方向性	WLB の継続的な取り組みを行いつつ、業務の洗い出しを行い改善に取り組む。
取組の結果	利用者の物品の一部を通販を利用し購入できるようにする。日々、利用率が上がっている。また、日誌の提出者を統一することで未提出が少なくなっている。

(2) 利用児者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	利用者ニーズに沿った個別支援計画の充実（達成度 80%）
現状と課題	個別支援計画のモニタリング（見直し）は、半年に 1 回とし 3 月と 9 月に全利用者を対象に個別支援会議を実施しているが、余裕がなく遅れることもあるため、適切なプロセス管理が必要である。
取組の方向性	プロセス管理に伴う課題の洗い出しを行うため、試験的な取り組み（モニタリング月の分散）の実施を行う。
取組の結果	利用者の誕生月毎に個別支援会議をする予定であったが、現時点では、会議の時間をとることが困難である。利用者の要望に応じた個別外出や身体的な変化に対応し検討を行い、サービスの質を高めることはできた。

実施施策	専門的な知識や技術の向上（達成度 85%）
現状と課題	利用者の重度高齢化が進む中、身体機能の低下に伴い、支援から介護へと移り変わっている。また、強度行動障がいや精神障がいの方などに対して対応困難な事例が増えており、更なる専門的な知識や技術が必要となっている。また、虐待防止及び権利擁護についても、研修会の実施や参加をしているが、不適切なケアや言葉遣いの根絶には至っていない。
取組の方向性	園内研修の内容定着を目指し、園内研修の一連の流れの仕組化に取り組む。
取組の結果	専門的な知識や技術の向上のため、外部研修（オンラインも含め）や法人内研修に参加。また、園内研修については、マニュアルを作成し月 1 回実施している。虐待防止や権利擁護

	についても、法人内研修の参加や会議等で確認を行い、意識改善に向けて取り組んでいる。
--	---

実施施策	統一的なサービス評価でサービスの質の向上(達成度70%)
現状と課題	サービス(支援)の提供において、タイムサービスは整備されているが、基本となる(仮)支援マニュアルが未整備であり、職員個々の経験と判断におけるサービス(支援)となっていることが見られる。また、第三者による客観的評価については、福祉サービス第三者評価事業が制度化されており、平成22年以降実施できていない。
取組の方向性	支援マニュアルの共有と見直しを行い、その他必要なマニュアルの整備を行い、サービスの統一化を図る。
取組の結果	サービス委員会を中心にマニュアルの作成は出来ているが、見直し、完成については、検討事項もあり進んでいない。福祉サービス第三者評価は、来年度受ける予定。

イ 安全安心で快適な暮らしを保証し、利用児者の満足度を高める。

実施施策	安全・安心な生活に向けたリスクマネジメントの強化(65%)
現状と課題	事業継続計画(BCP)について、防災や感染症に関して法人委員会を通して作成が進めている。作成後は実効性を高めることが必要である。安全対策については、ヒヤリハットを通して危機管理体制の強化を図ってきたが、万全とはいえない。
取組の方向性	① BCPの情報収集を行い、他施設との連携を強化し、実施に向け取り組む。 ② 月ごとのヒヤリハットの内容分析、対策、評価(見える化)を行い、環境整備に取り組む。
取組の結果	事業継続計画(BCP)について、感染症は、防災について共に作成はしているが、今後は必要に応じて改善していく。ヒヤリハットについては、リスクマネジメント委員会で月1回対策を協議、会議で検討し周知を行い、随時取り組んでいるが、評価分析までに至っていない。

実施施策	快適な生活に向けた居住空間の整備 (達成度75%)
現状と課題	障がい特性により不衛生な環境となることが見られる。居室は、4人部屋であることからトラブルとなることがあり、プライベートの確保が必要である。

取組の方向性	プライバシーに配慮した住環境の整備に取り組む。
取組の結果	アンケートを取り入れ整備を図るが、実施できていない。ケース会議で出された利用者の課題について、居室内の利用者同士のトラブルや利用者の特性に応じた居室環境及び食堂のしきり等の整備等を行う。トイレ内でのプライバシーの配慮のため、カーテンの買い替えを実施。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	積極的な地域交流・地域貢献 (達成度 90%)
現状と課題	地域交流・貢献として様々な取り組みを行っているが、限定的なものにならないよう、更なる地域との交流を図ることが必要である。
取組の方向性	地域交流・地域貢献についての必要性を全職員に周知し、障がい者理解について地域に発信する。
取組の結果	利用者が作成したアートをスマイル広場や別府アートマンス、平和美術展等で地域の中で展示することができた。また、久保地区のグランドゴルフ大会に参加した。

実施施策	地域生活支援拠点の機能(緊急受入れ)への体制整備 (80%)
現状と課題	地域生活支援拠点の機能(緊急受入れ)を担い、地域の困りごとに対応できる事業所として体制を整備していくことが必要である。
取組の方向性	職員間の連携強化に向け、緊急受入れに対する体制の整備を進める。
取組の結果	現存のマニュアルの見直し、及び新しいマニュアル作成が必要と思われるが十分ではない。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	利用率の向上と安定した収入の確保 (達成度 60%)
現状と課題	近年、利用率が 95%以上達成できていない年度もあり、定員に達していないことや利用者の重度高齢化による入院などで空床期間の増加が見られる。利用希望があり施設見学はあるが、利用までには至らないケースがある。報酬改定による加算取得のための適切な対応が必要である。また、将来の新築移転のための、施設整備費の積み立てが必要である。

取組の方向性	① 相談支援事業所との連携強化を図り、事業所の情報を発信するための仕組みづくりを行う。 ② 令和6年度制度改正に向けての情報収集と共有を図り、安定した収入の確保に取り組む。
取組の結果	相談支援事業所と定期的に連絡を取っている。また、市町村からも施設見学の依頼があり、前向きに検討しているが、環境面で断られるケースがあった。令和6年度の制度改正に関する情報収集は、全国施設長大会などの研修会で行っている。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	建物の老朽化への対応 (達成度 80%)
現状と課題	経年劣化により、建物の老朽化が進んでいるため、計画的に修繕を行うとともに、定期的な点検や日常の保守など建物・設備の維持管理体制を強化することが必要である。
取組の方向性	修繕計画に基づき計画的に取り組み、定期的に点検をする仕組みづくりを行い、効率の良い改善に繋げる。
取組の結果	建物の老朽化のため、修繕箇所が多い。また、利用者の特性上、すぐに破損するケースもあり、再度修繕が必要になる。修繕計画を作成し進めているが、細かい修繕に追われ、取り組めていないものが多い。支援室のソファの交換については取替、その他のものについては、来年度予算で計上する。エアコン・エレベーターの点検については、業者に依頼し定期的に行っている。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	組織内連携の強化 (達成度 60%)
現状と課題	職員会議について、業務フローを作成し、少人数で効率的かつ効果的に実施できるよう進め、随時改善を行いながら取り組んでいる。しかし、決定事項の周知など不十分な部分がある。また、報告、連絡、相談を強化した組織体制の構築が必要である。
取組の方向性	決定事項等、周知に対する環境整備 (WLB の継続) を図り、DX 導入に向けた情報収集を行い、試験的に取り組む。

取組の結果	職員会議について、全員が参加できるように、勤務を調整又は、超勤手当等で対応している。また、会議録を回覧しやすい様にファイルに綴じている。今後は、DX導入により、情報の整理を行い、回覧しやすい仕組み作りを目指す。
-------	---

3 目標利用率

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均 /月
生活介護事業	60	91.7	89.3	89.2	90.2	88.1	89.5	89.1	89.2	89.5	88.6	89.7	87.9	89.3
施設入所事業	60	92.2	90.1	89.4	90.5	89	89.8	89.9	89.9	89.2	88.2	90	90	89.8
短期入所事業	2	11.7	4.84	20	19.4	4.84	0	0	8.33	4.84	0	0	0	6.15
日中一時支援事業	2	0	0	0	1回	0	0	0	中止	中止	中止	中止	中止	

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	実施日
南棟廊下エアコン（天理4方向）	未実施		
福祉車両軽自動車（車椅子対応）	未実施		
AI熱検知・顔認証カメラ	未実施		
AED交換	(有)メディカルエイト	352	R5.4.25

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

名 称	請負業者	執行額	実施日
浴室照明器具取替及び絶縁改修工事	鬼塚電気工事（株）	253	R5.7.5
照明器具取替 浴室	鬼塚電気工事（株）	253	R5.7.15
照明器具取替 南棟及び北棟一階	(株)リレーションひまわり館	327	R5.10.24
1階職員トイレ改修	三重野水道		
職員浴室改修	未実施		
浴室マット設置	未実施		
ソファ交換（8台）	テクノプラス	462	R6.2.26
仕切り設置（食堂・支援室）	未実施		
利用者風呂場スロープ設置	未実施		
利用者トイレ手すり設置	未実施		

床の張替え（各居室・廊下など）	未実施		
-----------------	-----	--	--

6 大規模修繕計画

（単位：千円）

名 称	執行見積額
なし	